

プレゼンテーション (要旨)

- ・ TIS の河村です。よろしくお願いいたします。
急な電話会議の開催にも関わらずご参加いただき、ありがとうございます。
- ・ それでは、当社が本日 15:00 に発表いたしました「固定資産（不動産信託受益権）の取得に関するお知らせ」の内容について、ご説明させていただきます。お伝えしたい内容は概ね適時開示資料に記載していますので、それを補足する形で簡潔に申し上げます。
- ・ まず、取得の目的です。今回、所有することになる施設は、システムインテグレーターである当社が顧客のシステムライフサイクルにワンストップで対応するために展開しているシステム運用業務及び自社ブランドのクラウドサービスを提供するための中核拠点です。
- ・ こうした施設は、長期安定的な事業継続性を確保する観点から所有することを基本方針としていますが、今回の施設に関しては、当時の状況等から賃借することで開設いたしました。
- ・ その後、事業を展開していく中で、皆様もご存じのように、クラウド化の急速な進展をはじめとする事業環境の変化等を踏まえて、当社ならではのシステム運用業務のあり方や戦略を抜本的に見直してまいりましたが、施設を所有することの重要性に対する認識に変わりはなく、基本方針に沿って当該施設を賃借から所有に切り替える機会を継続的に模索してきました。
- ・ そして、この度、本件対象の施設所有者との交渉を通じて、所有の効果を楽しむことができる機会を得たこと、賃借から所有に切り替えることでの経済合理性及び大規模な投資の実行が可能である現在の当社財政状態等を総合的に勘案した結果、この機を逃すことなく、取得することを意思決定したものです。
- ・ 次に、取得の概要です。今回の取得価額の総額は不動産信託受益権 700 億円に諸経費を加えた約 720 億円となります。取得先は積水ハウス・リート投資法人であり、2023 年 10 月を初回として以降半年毎に不動産信託受益権の準共有持分 10%を各 70 億円で計 10 回にわたって分割取得し、最終取得完了は 2028 年 4 月の予定です。
- ・ 続いて、業績への影響についてです。不動産信託受益権の取得割合に応じて、賃料の実質的な減少が段階的に生じてまいります。当初は取得割合が小さいために業績影響はごく軽微ですが、最終的に 100%を取得した場合には、減価償却費の増加を差し引いても年間で 10 数億円の費用削減となる見込みです。
- ・ 最後に、本件は非常に大きな投資ではありますが、施設を所有することにより、システム運用業務及び自社ブランドのクラウドサービスの長期安定的な事業継続性の確保を実現できること、費用削減効果といった経営上の意義・メリットが大きく、当社グループの中長期的な企業価値向上に資するものと判断しており、ぜひ皆様にもご理解いただければと考えています。
- ・ 以上で、説明を終了させていただきます。

以 上